

## 令和3年度第11回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和3年11月8日(月) 午後2時19分～午後3時23分
2. 会 場 士別市役所 会議室201
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋  
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章  
委 員 加 藤 洋 之 合宿の里・スポーツ推進課長  
委 員 山 田 敦 久 坂 本 英 樹  
委 員 多 田 千 鶴 社会教育課長 武 山 鉄 也  
学校教育アドバイザー 石 橋 克 敏
4. 傍聴者 北海道新聞 大 口 弘 明
5. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

### ○中峰教育長あいさつ

前回の会議後、市議会一般質問や市民総合文化祭などがあったところである。本年度の文化祭も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため芸能発表は朝日地区のみの開催となったが、それでも、朝日中学校学校祭の際には観覧してもらえなかった地域の人たちに「中学3年生と先生によるダンス」を披露できたほか、岩尾内太鼓の演奏や書道などの作品展示も実施され、それぞれの活動によって、地域の中で元気を分かち合うと同時に、伝統芸能を次の時代に継承していくための重要な機会になったと思う。また、本年は新たな試みとして中央公民館による「オンライン展示」を行ったほか、上士別、温根別の両公民館では各出張所において作品展示を行ったところである。

10月30日には、今年で4回目となる「士別絵本ツアー」が開催され、道の駅など市内のポイントを巡るツアーに多くの親子が参加した。

また、10月20日には、北海道立図書館の支援による「ブックフェスティバル」が、士別南小学校を会場に開催され、子どもたちは校内に展示した2千冊の本に驚きながら、自分の好きな本を手にとったり、先生による読み聞かせに聞き入るなど楽しいひと時を過ごした。同校では翌日も子どもたちが本を気にする様子が見られ、読書に興味を持つ大きなきっかけとなったようだ。毎日継続し、長く続けることも大事であるとともに、適切なタイミングで、その都度子どもたちの関心や意欲を沸き立たせるスイッチを押してあげるといことも重要である。子どもたちが自分の特性を知るための気づきになれば良いと思っている。

本日は先ほどの総合教育会議に続いて、本会議についてもよろしく願います。

### 1 議事について

#### ○中峰教育長 進行

議案第23号 「令和3年度士別市教育委員会補正予算」について説明を求める。

#### ○三上部長

本年度当初は、灯油1リットルあたり83.6円であったが、現在は112.2円に高騰している状

況であり、燃料費の予算に不足を生じるため補正予算を要求するものである。なお、今年度から各施設の機械警備業務を市が一括で入札する方式に変更したことにより、例年より多くの執行残が生じることとなったが、この執行残を燃料費に充てたうえで、なお不足すると見込んだ額を要求している。学校教育課など6課・施設において補正予算を要求するが、図書館・生涯学習情報センター、市民文化センター、スポーツ交流館については、機械警備業務委託以外にも流用可能な項目があるため補正不要と判断したところである。

○中峰教育長

機械警備業務が入札になったことにより、市全体として3千万円程度のコストカットのほか、施設照明のLED化に伴う影響もあると聞いている。学校や総合体育館などは、LED化して明るさなど問題ないか心配だったが、特に問題ないようだ。以前、小学校費と中学校費で燃料費補正の取扱いが違い、質問されたことがあったので、その点についても留意すべきと考えている。

○中峰教育長

議案第24号 「土別市における令和3年度全国学力・学習状況調査の結果等の分析」について説明を求める。

○石橋アドバイザー

前回の会議でご説明した内容について、校長会との協議も経たなかで文言等を修正した。校長会から、「土別の子どもの学力を底上げし、地元の高校で学び、土別で働きたいと思ってくれる人材を育てることが必要」との意見もあった。

○中峰教育長

昨年はコロナ禍の影響により、「全国学力・学習状況調査」そのものが実施されなかったが、以前の分析作業では校長会との協議に時間を要したこともある。

○山田委員

校長会は家庭学習の時間にこだわったようだが、学校ではどのくらい意識しているのか。

○石橋アドバイザー

できている学校とそうではない学校で捉え方が違う。

○中峰教育長

単に時間の問題ではなく、学習の質が求められる場合もある。

○山田委員

分析なので、多少厳しめにしておくべきではないか。

○中峰教育長

より丁寧に子どもたちへの指導を行い、個別最適な学習を進めることも大切だと考えているが、その一方で教員の負担が増加し、働き方改革に逆行してしまうという課題もある。本市だけの課題ではないが、人間性豊かな子どもを育成するため、特に心を健全に育む取組を推進すべきと考えている。

○加藤委員

中学校ではICT端末を介して宿題を配付したこともあるようだ。

○中峰教育長

ICT端末は全市的に学習用のツールとして使用することを原則とする。端末の整備がゴールではない。教育委員会ではプロジェクトチームを立ち上げており、各校においても同様に取組んでいる。土別中学校では、既に「家庭のネット環境」について調査を実施しており、家庭にネット環境がない場合は

公共施設を利用し、接続状況をテストするなどについても試行している。周辺校ではなかなか取組が進んでいない状況もあるが、温根別小学校では道教委の「まなLabo」事業を活用し接続試験を行っているところである。

全校一斉に実施することは難しいため、やれることから試行的に進めている状況である。

○加藤委員

一般的には、ICTに明るい教員がいる学校は動きが早いのではないかと。

○中峰教育長

学校の考え方や学年によっても状況は異なってくる。昨年度実施した導入研修後に、ある学校では、教頭の働きかけもあって、ガラケーを使用しており、マチコミメールにも対応できていなかった教員が、スマートフォンに機種変更した例もあり、意識が変わっている場合もある。

○加藤委員

SNSでのトラブルが問題になっているが、若者だけでなく、60代、70代の人にも該当しているようだ。我々も含めSNSに関する教育は受けていない。子どもたちの方が詳しい状況にあるため、保護者や地域の大人がもっと理解を深めなければならない。

○中峰教育長

10月26日に開催された「子どものネット被害を防ぐ研修会」には、20人程度しか参加者がいなかったようだ。研修の必要性を考えるべきとも考えている。

## 2 その他について

◇当面する今後の日程について

三上部長説明。

午後3時23分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰 寿彰

会議録調整者 須藤 友章